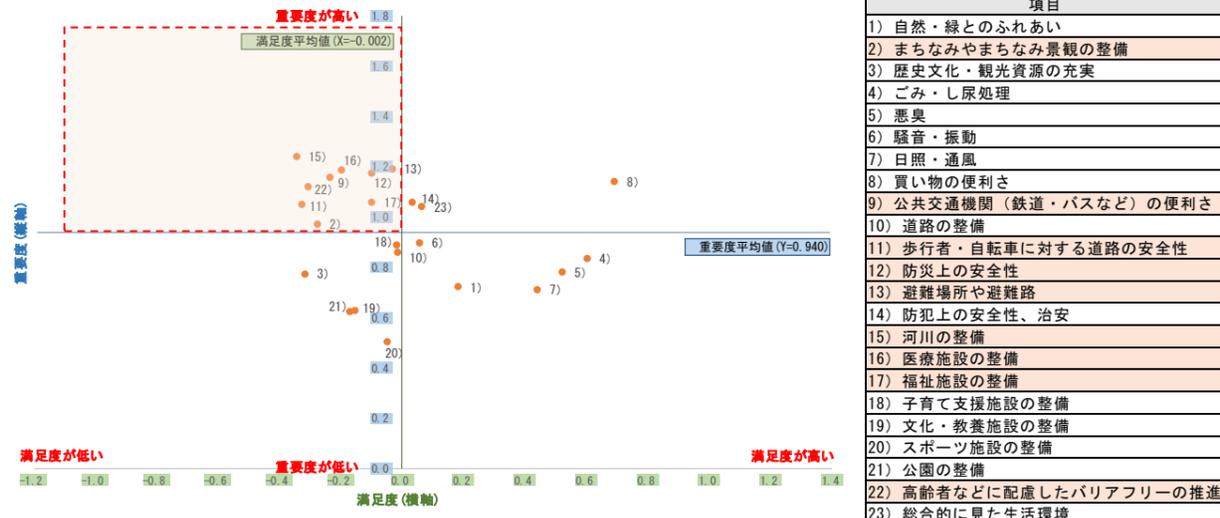


1. 市民アンケート・地域別説明会の意見等

1-1 市民アンケート結果（南地域のみ）

- 「居住地域における生活環境」では、平均より重要度は高いが満足度が低い項目として、「15）河川の整備」、「11）歩行者・自転車に対する道路の安全性」などの9項目があがっています。



- 「居住地域における現在の土地や建物の状況」では、「空き家が増えてきた」の割合（67.2%）が最も高くなっています。
- 「敦賀市の今後のまちづくりの方針」では、「雪や災害に強いまちづくりを進める」の割合（15.9%）が最も高くなっています。

1-2 第1回地域別説明会における意見等

- 令和2年1月23日（木）に南公民館にて計画の内容について説明しました。参加人数：7名。
- 主な意見等は以下のとおりです。

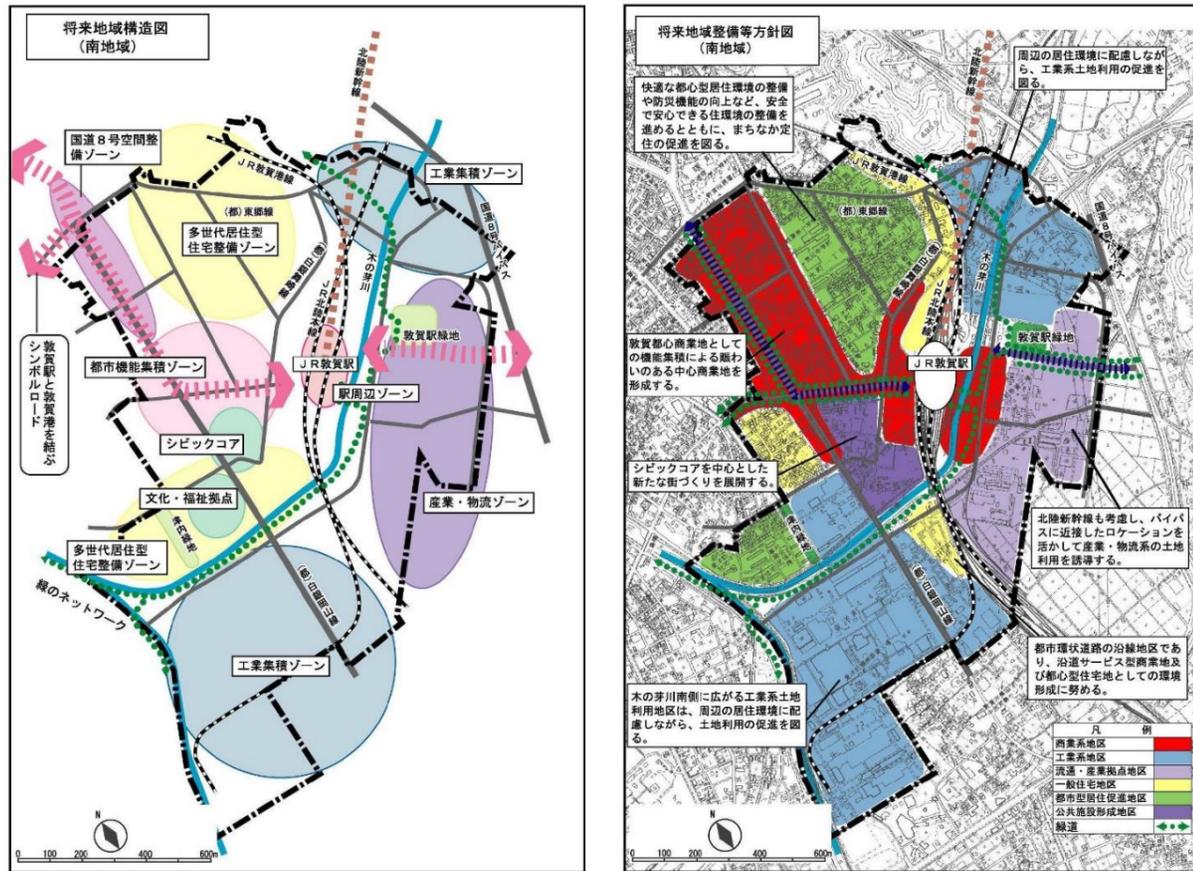
土地利用	<ul style="list-style-type: none"> 県道の駅東線アクセス道路の北側について、準工業地域などに変更しないといけないのではないか。 アクセス道路（駅東線）の北側に工業専用地域が残る形になるので、まちづくりの将来性の観点から、どんなものでも建てられるような地域にしたらどうか。
道路	<ul style="list-style-type: none"> 本町1丁目は国道の裏側は市道になっているが、幅が狭く、車1台通るか通らないかというような道路がほとんどである。 白銀町交差点～27号までの道路に歩道を付けてほしい。できれば、ベビーカーが押せて自転車も混在できるもの。 日本ピーエスの前のJRアンダーパスを広くしてほしい。
空き家	<ul style="list-style-type: none"> 本町1丁目は空き家も40軒以上あり、商店街も含めるともっと多い。
人口減少	<ul style="list-style-type: none"> 本町1丁目は高齢化率が40%を超えており、活性化対策についていけるかが問題である。

2. 現行計画の評価

- 平成21年度に改訂し、2020年をもって将来目標年次を迎えた現行計画について、市関係各課の実績をヒアリングし、達成状況を評価しました。

土地利用の方針 〈都市的土地利用〉	住居系 土地利用	<ul style="list-style-type: none"> コンパクトな都市づくりを目指し、中心市街地では、誰もが住みやすい、歩いて暮らすことができる基盤整備により、まちなか定住の促進を図るとともに、市民主体によるルールづくり等を検討し、より良い居住環境づくりに努めます。 既成市街地が形成される駅西地区は、工業系土地利用との混在を解消するとともに、公園緑地を整備しながら、快適な都心型居住環境の整備や多世代居住型住宅の整備、防災機能の向上などによる安全で安心のできる住環境の整備を進めます。
	工業系 土地利用	<ul style="list-style-type: none"> 木の芽川南側に広がる工業系土地利用地区は、周辺の居住環境に配慮しながら、土地利用の促進を図ります。
	商業系 土地利用	<ul style="list-style-type: none"> 既成市街地および駅周辺の商業系土地利用地区は、都心型商業地の配置を念頭におき、情報基盤や交流機能の充実、商業サービス業務機能の集積による賑わいのある中心市街地を形成します。
	産業・物流系 土地利用	<ul style="list-style-type: none"> 駅周辺地区は北陸新幹線も考慮し、バイパスに近接したロケーションを活かして、産業・物流系の土地利用に誘導します。
概ね達成		立地適正化計画の策定（居住誘導区域及び都市機能誘導区域の設定）、指定緊急避難場所の指定・標識整備、多様な家族世帯に対応した市営住宅の建設、敦賀駅西地区土地区画整理事業の実施など。
環境等整備方針 〈都市緑地整備の方針〉		<ul style="list-style-type: none"> 緑豊かな都市づくりを目指し、シンボルロード沿線を緑で覆われた街路樹等でネットワークし、市民にうるおいやすらぎを提供します。 緑地や河川などを整備し、都市における緑のネットワークを形成します。 市街地内に残る農地に対しては、生産緑地指定などを行うことで、市民菜園など都市のうるおいの空間として活用します。 地区計画、緑地協定などの活用により、民有空間の緑化を進め、緑豊かな市街地を形成します。 新規に敦賀駅背後の緑地整備を図ります。
	未達	【未達】シンボルロード沿線の緑化、生産緑地指定、民有空間の緑化など。
環境等整備方針 〈景観形成の方針〉		<ul style="list-style-type: none"> 敦賀駅周辺地区については、都市の玄関口にふさわしい景観づくりを進めるため、新たな事業展開とあわせて、夜間の景観形成をも考慮したまちづくりを進めます。 シンボルロードの沿線などに街角スポット的な緑地空間を整備し、休憩などの施設整備により、街並みにうるおいを創出します。 シンボルロード沿線については、官民協働による賑わいのある空間づくりを図ります。
	概ね達成	駅周辺整備構想などに基づく夜間景観に配慮した整備、国道8号沿いに新たな歩行空間を創出、国8歩行空間活用イベント（社会実験）の実施。
環境等整備方針 〈都市環境形成の方針〉		<ul style="list-style-type: none"> 敦賀駅前地区については、駅周辺の潜在的用地に対して再開発事業等の手法を活用することで、情報通信機能、観光案内機能、宿泊機能などの複合機能を充実させ、玄関口にふさわしいシンボル街区を形成します。 駅周辺については新幹線整備計画の具体化を契機として、駅周辺の新たな都市拠点を形成します。 密集市街地を対象に、車社会に対応した駐車場を整備するとともに空き地や空家の効率的な活用を行います。
	概ね達成	空き家・空き地情報バンクの整備、白銀駐車場・駅前立体駐車場の整備など。

● 現行計画における将来地域整備等方針図（南地域）



3. (1・2を踏まえた) 地域における現況と課題

- 現行計画の「駅舎改築をはじめとした再開発事業等」について、新幹線開業に向けた周辺整備が実施されています。(景観整備、駅前広場整備等)
- 駅西側を起点に、今後も中心市街地を核とした賑わい創出及び活性化を図っていく必要があります。
- 空き家、空き店舗の増加がみられます。【地元】
- 立地適正化計画により、都市機能誘導区域、居住誘導区域の指定がされています。
- 都市計画道路(敦賀駅東線)の整備工事が進められており、国道8号バイパスと敦賀駅との結ぶアクセスの強化が見込まれています。
- 国道8号2車線化により新たにできた歩行空間の利活用が求められています。

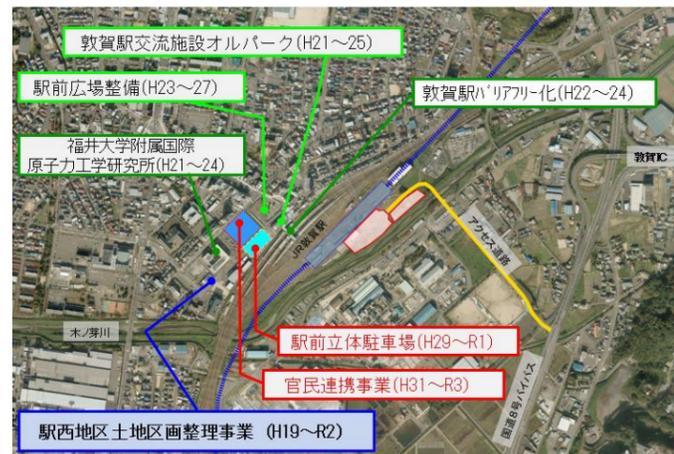
4. まちづくりのテーマ・将来に担うべき都市機能

4-1 まちづくりのテーマ

敦賀駅を中心とした賑わいと憩いの共存するまち

4-2 将来に担うべき都市機能

- **新たな玄関口となる新幹線駅周辺のまちづくり**
 敦賀駅周辺の整備を進めるとともに、北陸新幹線が発着する新たな玄関口として公共交通の強化を図ります。
 <基本的な考え方>
 ・敦賀駅周辺の整備や都市機能誘導区域への指定による新幹線の玄関口としての公共交通の強化が求められます。
- **駅周辺地区への施設誘導や歩行空間の整備による賑わいのある中心市街地の再構築**
 敦賀駅周辺における都市機能の集積、空き家、空き店舗の活用などにより、中心市街地の賑わい創出を図るとともに、歩行空間の整備による周遊性などの向上を図ります。
 <基本的な考え方>
 ・空き家、空き店舗の活用も含めた敦賀駅周辺への都市機能と中心市街地の賑わい創出が求められます。
 ・敦賀駅周辺の歩行空間整備による周遊性、利便性の向上が求められます。
- **子育てや教育、在宅介護機能の備った多世代共存型の住環境の形成**
 子育てや教育、在宅介護機能など、子供から高齢者まで誰もが安全・安心に暮らせる多世代共存型の住環境を形成します。
 <基本的な考え方>
 ・都市機能が集約することで、公共交通利便性の向上や子育てや介護が必要な世代にとっても住みよい住環境の形成が期待できます。



(国道8号歩行空間利活用イベント)

5. まちづくり方針図と各種方針（案）



南地域 土地利用の方針



- 用途地域・条例による区域内
- 住宅系地域**
 - 「敦賀市立地適正化計画」に基づき、市街地では定住の促進や、地域住民主体によるルールづくりなどを検討し、より良い居住環境づくり。
 - 敦賀駅西周辺では、官民連携により公園・広場を整備するとともに、防災機能の向上を図り、安全で安心して暮らせる住環境の形成。
 - 市街地への移住・定住を促進するため、各種支援事業を推進。
 - 工業系地域**
 - 木の芽川南側に広がる工業地については、周辺の居住環境に配慮しながら、適正な土地利用を誘導。
 - 都市計画道路3・5・29号敦賀駅東線周辺の用途地域の変更を検討。
 - 商業系地域**
 - 敦賀駅西周辺では、官民連携により、中心市街地の活性化とともに、商店街などへの波及効果。
 - 市街地を活性化するため、敦賀駅西地区を中心とした商業機能の集積に向けた土地利用を推進。
 - 市街地内の空き地、空き家などの低未利用土地の利活用を検討。
 - 市街地の活性化のため、市営駐車場の新設を含めた整備を検討。

南地域 環境等整備方針

- 交通体系**
 - 中心市街地拠点を取り囲む第2環状道路の実現に向けて、都市計画道路の計画決定を検討。
- 公園緑地**
 - 国道8号歩行空間の整備における、沿道の緑化を維持・形成。
 - 敦賀駅東側については、緑地空間や親水護岸の河川整備を推進。
- 都市景観**
 - 敦賀駅周辺については、都市の玄関口にふさわしい景観づくりを推進するため、駅周辺整備構想や敦賀駅周辺デザインガイドラインに基づき景観整備を推進。
 - 北陸新幹線開業に向けて、敦賀市の新たな交流拠点・玄関口となる新幹線新駅周辺の適正な景観誘導を図るため、敦賀市景観計画の改定を検討。
 - 国道8号歩行空間における、良好な沿道景観を維持・形成。
 - 中心市街地において活躍するまちのプレイヤーの発掘・育成や情報発信などに組みながら、官民協働による賑わいのある空間づくり。
- 自然・都市環境**
 - 老朽危険空き家等除却支援事業、空き家・空き地情報バンクなどにより、危険な空き家などの改善や、空き家や空き地の効率的な活用。
 - 市街地内の空き店舗については、まちのにぎわい創出及び都市のスポンジ化（空洞化）対策として、民間主体のリノベーションを推進。
 - 日本遺産に認定された眼鏡橋を地域の歴史文化を伝える観光資源として活用し、観光誘客の促進や地域の活性化。

敦賀市都市計画マスタープラン策定に関する第2回地域別説明会（南地区） 開催結果

■開催概要

開催日	時間	場所	参加人数
1月29日（金）	19:00～20:30	南公民館	5人



■参加者からの意見等

	意見	回答
●全体構想の方針（案）		
都市づくりの将来像		
都市計画	<ul style="list-style-type: none"> 日本の人口が減少する中で敦賀だけが維持することは不可能だと思うし、鉄輪町の周りは空き家がいっぱいある。 どこから人を集めるということも、敦賀だけでなく、日本全国がそうだから不可能だと思う。 人口は増えないということを前提に、都市計画マスタープランを作らないといけないと思う。 	<ul style="list-style-type: none"> 人口が減少する中で、提供できる市民サービスを維持していくために、居住を長期的に緩やかに集めて人口密度を保っていかうというのが、「立地適正化計画」である。 生まれ育った場所から離れずに住まわれている方々のために公共交通を居住誘導区域、都市誘導区域と結び付けることが、立地適正化計画の大きな目標である。 立地適正化計画との整合を図りながら、都市計画マスタープランでは居住誘導区域、また都市機能誘導区域を重点にし、計画の作成を進めている。
	<ul style="list-style-type: none"> 内容はとても立派な内容だと思うが、財政が健全財政から程遠いところにあるということを前提にして、計画を組まないといけないのではないか。 市民全体に計画の実態を知らしめて、協力を得ながらまちづくりをしていくということにつなげていってほしい。 	—
●地域別構想の方針（案）		
土地利用の方針／商業系地域		
中心市街地	<ul style="list-style-type: none"> 商業系地域の「商業機能の集約に向けた土地利用を推進」や「中心市街地の活性化とともに、商店街などへの波及効果」は、目標なのか、それとも実際実施していこうとしているのか。 	<ul style="list-style-type: none"> 商業や観光といったものの、具体的な施策や計画を打ち出すための一つのベースとして、都市計画マスタープランを作成している。 具体的なことは担当各課との協議の中でこれから進めていく。
	<ul style="list-style-type: none"> 今後、市としてそういう方向に向かっていくということによるのか。 	<ul style="list-style-type: none"> 都市計画マスタープランは、地域住民の意見をお伺いしながら作成をすることとなっている。 マスタープランを実現していくために、行政の取り組みとともに、地域、行政が一体になって目指していければと考えている。
環境等整備方針／公園緑地		
公園	<ul style="list-style-type: none"> SL公園で、何日間か期間限定でもいいから、鉄道の内部公開みたいな、触れ合いができればすごくありがたい。 見るだけだったら面白くない。何とかならないか。 	<ul style="list-style-type: none"> SLの掃除といったイベント、企画が行われていた。 公園の管理は都市政策課であるが、SLの所有はJRで、その管理は市で行っている。 今後、もっと触れ合えるような形で活用できると良いと思っている。

環境等整備方針／自然・都市環境		
文化・観光	<ul style="list-style-type: none"> 眼鏡橋について、スタンプラリーに参加された方から場所が分からないと聞いたので、分かるような表示が欲しい。 安全性も考えてもらいたい。 	<ul style="list-style-type: none"> 鉄道遺産のPRを含めた観光事業の一環として、安全対策を含めてこれから検討していくことになると思う。 民地であり、案内板などは設置できない。
	<ul style="list-style-type: none"> 敦賀にもいろいろないいところがたくさんあるのに知らないというのは、もったいない。 	<ul style="list-style-type: none"> それぞれの地域に、また磨き上げればどんどん発信できる宝（文化遺産）があるので、それを計画の中でも保全、活用していこうという方針を加えている。
●その他		
都市計画マスタープラン	<ul style="list-style-type: none"> 都市計画マスタープランというのは、今までの歴史はどのようなものだったのか。 まちづくりをどういう形で進めてきたのか。 	<ul style="list-style-type: none"> 都市計画マスタープランは、将来の都市像を示す計画である。 敦賀市においては、総合計画というのが一番ベースの計画になっている。
	<ul style="list-style-type: none"> 人口や全国の自治体数が減少する中で、敦賀の将来をどう標榜するのか。 計画そのものは全般的にまとまっていると思うが、私自身が計画の中身を検討する前に、こういう計画があって、今現在どうなっていて、過去の計画がどうだったのか。そういったことを踏まえて、これからどういうまちづくりをしていくのかを教えてほしい。 	<ul style="list-style-type: none"> 人口減少、著しい少子高齢化が進む状況の中で、市としてどういう都市づくりをしていくかが前提にある。 都市計画マスタープランは20年間の計画であり、前回の計画を踏襲しつつ新しく加えた要因を反映させた計画となる。 現行計画は都市計画区域内を対象としていたが、今回の計画は敦賀市全域としている。 20年後の予測は難しいが、いかに微調整をしながら、市民の生活に寄り添った計画とするか、それをこれからどのように進めていくかが、この計画の策定には大切だと考えている。
少子高齢化	<ul style="list-style-type: none"> 敦賀市の年齢層でいうと、結構高齢化が進んでいるのか。 20年後を考えたら、ここはどうなっているのだろう。 	<ul style="list-style-type: none"> 各地区によってばらつきはあるが、大体4人に1人が65歳以上の方という形になっている。 高齢化に関しては、長生きできるまちであるので、決して悪いわけではない。 問題視すべきは少子化であるので、子どもが育てやすい環境をつくっていくというところで、市では子育て支援を打ち出している。 敦賀市では昔から子育てがしやすいまちだと言われていたが、大学で外へ出て、そこで就職してしまうことが比較的長く続いていた。 その対応策として、市内に大学をつくる、あるいは就職できる場所をつくるといった取り組みを実施してきた。 コロナ渦という状況を生かして、田舎の方で働きたい方向けに敦賀で働いてもらえるような環境を整えることを検討しているところである。